

なつほのか通信 Vol.6 特大号

2021.12月発行



「なつほのか」の収穫風景

9月下旬から10月上旬にかけて、各地実証ほの「なつほのか」の収穫が行われました。実証ほ受託者からは、収穫の適期の判断が難しい、等の声が聞かれましたが、ほぼ全ての実証ほで、収量・品質ともに「ヒノヒカリ」を上回る良好な結果が得られました。



中津（10月4日）

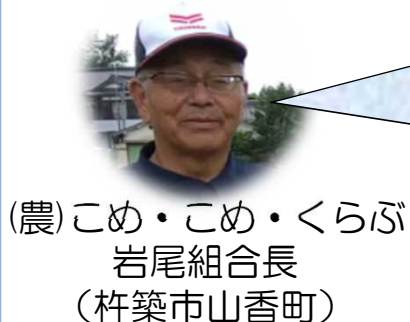


実証ほ受託者の声を聞きました!

栽培しやすく、**収量もヒノヒカリより多かった**ため良かった。品質については、**乳白等が発生していなくきれいな米**であった。ヒノヒカリと比較した食味に関して、法人内で評価は分かれたが、全体としては好評であった。R4年度作付けは、法人内で検討中。



(農) 畑田 都留氏
(宇佐市)



(農) こめ・こめ・くらぶ
岩尾組合長
(杵築市山香町)

作りやすく、**収量もヒノヒカリよりも1~2割ほど高く、等級も良く全量1等**であった。**味もおいしく**（ヒノヒカリとほぼ同じ）、主食用米として積極的に作付けしていきたい。

単収が**ヒノヒカリに比べ3俵近く多収**だった。**品質も良く、美味しい**とてもいい品種。



(農) いのうえ
(豊後大野市
緒方町)

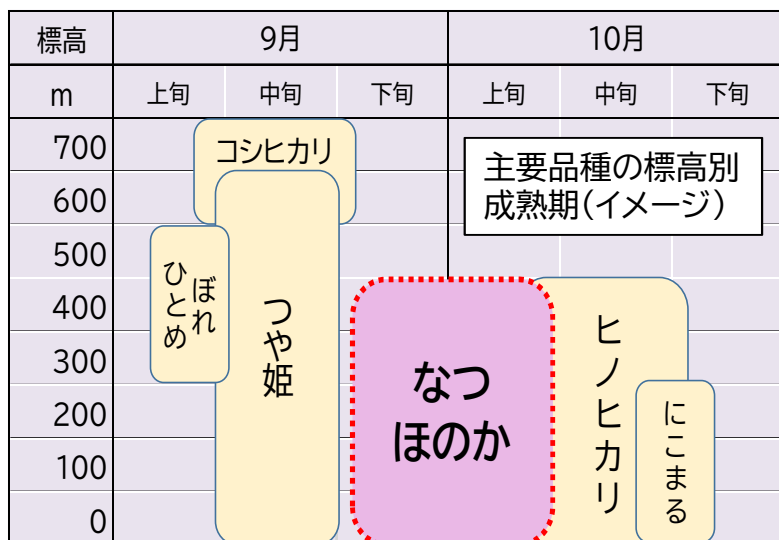
水田農業グループの生育収量調査結果（令和3年産）

	出穂期	成熟期	稈長	穂長
	月.日	月.日	cm	cm
なつほのか	8.25	10.05	87	18.9
ヒノヒカリ	8.29	10.12	91	19.3
	穂数	玄米重	同左 ヒノヒカリ 対比	千粒重
	本/m ²	kg/10a		g
なつほのか	429	684	111	22.0
ヒノヒカリ	401	615	100	21.8



※移植期6/25、坪50株、標高8m(宇佐市北宇佐)、玄米重及び千粒重は1.70mm篩いで調製

作期分散により作業性が向上



早生の「なつほのか」は、極早生の「つや姫」や、中生の「ヒノヒカリ」の間に成熟期を迎えます。

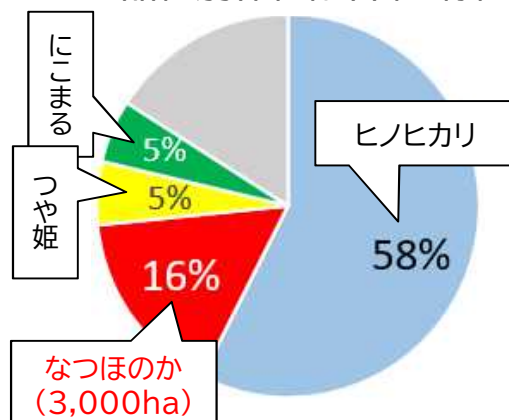
標高に応じて、複数品種を作付けることで、品種の集中を解消でき、**収穫等の作業分散に加え、病害虫や台風等の気象のリスクも軽減**できます。

令和4年度から本格導入

大分県では、新品种「なつほのか」を令和4年度より本格的に導入します。初年度の目標面積は1,000haで、令和6年度には、さらに3,000ha以上に拡大します。

高温耐性品種である「つや姫」「にこまる」と併せて「なつほのか」を推進し、バランスの取れた品種構成を目指します。

令和6年度
品種別作付割合(目標)



種子や苗についてはお近くの農協もしくは集荷団体等にお問い合わせ下さい。

作成者：大分県農林水産部 水田畑地化・集落営農課 (☎097-506-3596)
農林水産研究指導センター 水田農業グループ (☎0978-37-1160)